



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 259

2018/07/01

今月の一枚

今月のイベント

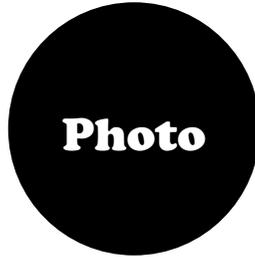
参加者募集

GREEN COLUMN

01. 五感で楽しむ植物
02. 美幌峠のヨツバシオガマ



今月の一枚



「オオウバユリの花」

表紙写真・文／城坂結実

7月の盛夏に、一際大きな花を咲かせるオオウバユリ。まとまって咲くことが多いので、美幌町の様々な場所で出会えます。オオウバユリは、10年ほどかけて花を咲かせ、種をつけて一生を終えます。今年は、せせらぎ公園の遊歩道沿いでも、10年越しの花がたくさん見られそうです。

Event. 今月のイベント

夏だ！昆虫グッズ！無料レンタル 7月1日（日）～8月31日（金）

博物館講座（自然編）「イワナ学入門」 7月7日（土）,8日（日）

特別展「アイヌ文化に生きる植物」 7月21日（土）～10月21日（日）

特別展関連講座「オホーツク周辺のハ虫類・両生類とアイヌ文化」7月28日（土）

プチ工房「チューブブレスレット」 7月25日（水）,27日（金）

Information. 参加者募集

夏だ！昆虫グッズ！無料レンタル

●7/1（日）～8/31（金）9:30 - 17:00 ●美幌博物館 1F 受付 ●無料 ●受付で名前と連絡先を記入すること。

博物館講座（自然編）「イワナ学入門」

【講演会】●7/7（土）16:00 - 17:30 ●博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●森田健太郎氏（国立研究開発法人水産研究・教育機構）●申込み不要。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要,定員50名で締切。

【観察会】●7/8（日）9:00 - 12:00 ●美幌町古梅（集合解散は博物館）●保険料（100円）、野外で活動できる服装（長袖、長ズボン、帽子を着用）、軍手、雨具、虫除け、胴長（持っている方のみ）●森田健太郎氏（国立研究開発法人水産研究・教育機構）●美幌博物館へ電話申込み（6/1 - 7/4）。キャンセルは7/4まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要,定員25名で締切。小雨決行。荒天時は、室内学習を実施します。

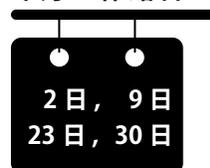
プチ工房「チューブブレスレット」

●7/25（水）,27（金）10:00 - 12:00, 14:00 - 16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（1個300円）●八重柏誠（美幌博物館）●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

特別展関連講座「オホーツク周辺のハ虫類・両生類とアイヌ文化」

【講演会・観察会】●7/28（土）10:00 - 12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室、みどりの村 ●保険料（100円）、野外で活動できる服装、帽子、虫除け、飲物 ●徳田龍弘氏（北海道爬虫両棲類研究会）●美幌博物館へ電話申込み（7/1 - 7/25）。キャンセルは7/25まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要,定員25名で締切。天気が観察に向かない場合、室内でヘビの抜け殻などを観察します。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム

五感で 楽しむ植物

写真・文／城坂結実



昔とある先生に「五感を使って植物を観察しなさい」と言われたことがあります。目で見て植物の種類を覚えるだけでなく、手で触れたり、匂いを嗅いだり、時には口の中に入れてみたり。そうすることで、植物を様々な角度から知ることができる、ということなのでしょう。

植物の花や葉、枝からは、見た目からは想像できないような香りがすることがあります。

例えば、春の山菜でよく知られる、ギョウジャニンニク。山菜にもなるその葉の香りを嗅いだことがある方は、多くいると思いますが、花の香りはご存じですか？ちなみに葉からは、強烈なニンニクのような香りが漂います。あまりに強烈な香りなので、葉を食べた後は、翌日まで口臭に気をつけるよう、言われることもあるくらいです。しかし、その花（写真）からは、意外

なくらい華やかな、ユリのような香りがします。

また、早春に、白くて大きな花を咲かせる樹、キタコブシ。花はもちろんのこと、その枝からも花と同じようなよい香りがします。アイヌ文化では、この香りのよい枝や樹皮を煮出して、飲むこともあるそうです。キタコブシは、葉からも柑橘類のような香りがするので、これからの季節、ぜひ香りを確かめてみてください。葉の香りを嗅ぐ時は、手で葉を細かくちぎるのがコツです。

さてこの夏は、7月21日（土）より、特別展「アイヌ文化に生きる植物」がはじまります。キタコブシのように、アイヌ文化の中で使われる植物をたくさん紹介します。特別展は無料でご覧いただけますので、みなさんのお越しをお待ちしています！

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

美幌峠の ヨツバシオガマ

写真・文／鬼丸和幸



美幌峠では、春～秋にかけて、多くの色とりどりの草花たちが顔を見せてくれ、来訪者の目を楽しませてくれます。現在、美幌峠周辺では、約200種を超える草花たちが生育していることが確認されています。

ヨツバシオガマは、美幌峠の晩春～初夏を代表する高山植物の1種です。草丈が20cmほどと小さく、薄いピンク色のかわいい花をつける植物です。シダのような切れ込みがある葉が、茎の節ごとに4枚ずつ輪生（輪のようにぐるっと回った形状）しているのが特徴です。美幌峠頂上に向かう遊歩道に並行して、帯状に点在しており、この付近だけでも、150株ほどが確認されています。しかも遊歩道のすぐ脇にあることから、腰をかがめると、じっくりその姿を観察でき、楽しむことができます。

遊歩道の両側を見てみると、帯状

にこんもりとしたハンモック状の塊（植生ハンモック）が、断続的に続いているのがわかります。このハンモック状の塊は、コケ類や背が低い植物などが密生してできたもので、その下は適度に湿った良好な土が形成されています。美幌峠では、この植生ハンモックが、あちらこちらで見られ、ヨツバシオガマをはじめ、多くの高山植物たちが生育する“オアシス”となっています。

可憐な高山植物であるヨツバシオガマ。今度、美幌峠の遊歩道を歩く機会がありましたら、ぜひ探してみてください。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/bunya/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....

もうすぐ7月だというのに寒い日が続き、ついついストーブをつけてしまいました。暖房代を節約するため、セーターをズボン代わりに何枚も履いたり、新聞紙を丸めて衣服の中に詰め込んだりして、寒さをしのいだ貧乏学生時代を、ふと思い出していました。